

あれから322年

一般社団法人

# 中央義士会報

創立明治41年

令和7年12月発行 No77

## 目次

一般社団法人として2年目を迎えて	編集部	1
若き浅野内匠頭長直(二)	元	2
社員総会報告	北江浩史	5
平成堀内組の今日	宮川政士	6
新潟支部の活動	関根正隆	7
継続は力なり	渡邊信和	8
伊豆大島瀬定八墓参	萩原 栄	9

### 一般社団法人として2年目を迎えて

令和6年4月から、一般社団法人 中央義士会として活動を開始し今年で2年目を迎えました。

支部も北海道支部、新潟支部、静岡支部、京都支部、豊岡支部、赤穂支部そして九州山鹿支部の七支部に拡大しました。毎年恒例12月14日の泉岳寺での赤穂義士追憶の集いも参加者は、一般社団法人になってから、年々増加し、今年は150名を超えています。これまで泉岳寺の庫裏で行われてきた集いは、入りきれなくなつたため、法要から講演、抽選会まで広い本堂をお借りすることになりました。できるだけ参加希望者は断らずに受け入れるために、人数的にはここ数年経験したことがない数となりました。全てが手探りの状態で、来年以降の参考にしたいと考えております。

恒例の、1月末に行う吉良邸跡から泉岳寺までの引揚げルートを歩く会も赤穂からの参加者も加え、40名を超える盛況ぶりでした。月一勉強会も形態を変えて、忠臣蔵講座にしてから2年目となりました。2年目の今年は、地図を持って外へ出よう、のスローガンで、4回にわたり刃傷事件から義士切腹まで時間を追って都内の史跡を巡りました。各回とも40名を超える参加者でした。これらの都内を歩く会はプロの阪急交通社による安全管理のもと、ガイドを当会の認定講師が務めています。

再興忠臣蔵検定試験も今年で2回目となりました。60点で合格、75点で忠臣蔵講師、90点で忠臣蔵博士の称号が得られます。昨年は最難関の博士が3名出ました。

令和7年忠臣蔵講座の報告	萩原 栄	16
中央義士会理事会新潟新発田長徳寺にて開催	松岡康彦	15
忠臣蔵愛好会のご案内	柿崎輝彦	14
令和8年忠臣蔵講座	萩原 栄	13
業務報告	進藤 務	12
検定試験・新入会員・編集後記	柿崎輝彦、編集部	11
広告	柿崎輝彦、編集部	10

忠臣蔵検定試験は今年も11月30日に開催します。また、受験者向けに注意事項や試験範囲など事前に2回講習会を行います。講習会は無料でZoomでも受講できますので東京に来られない方も是非ご参加下さい。

史実だけでなく、文化の面にも力をいれています。歌舞伎や演劇なども(株)松竹、歌舞伎座、チケット販売会社、劇団なども協力し会員への便宜を図っています。

泉岳寺様よりご依頼のあった、義士墓域におけるガイドや大石内蔵助らの切腹地での説明ガイドも行っています。ガイドは当会の認定講師です。この説明によって入会される方も大勢います。

社員総会は6月に開催。また、会の運営を議論する理事会も毎月行い、年に1回各支部において行っています。今年も新潟支部の新発田市で実施しました。

ボランティア活動として、年に2回高輪台小学校の授業の一環として行われる、泉岳寺の忠臣蔵関係の見学会にも泉岳寺様に協力しています。大石内蔵助らの切腹地の清掃も行っています。

これらの活動内容については、随時会報で報告しておりますので是非お読み下さい。

会報には今回から広告も掲載しております。また個人会員だけでなく、法人会員の募集も開始しました。法人の皆様も忠臣蔵に関心があり、当会の活動にご賛同される方は是非お申し込み下さい。

今後も新たな事業の開発や、忠臣蔵文化の発展、史実の普及などにも力を注いでいきます。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集部

## 若き浅野内匠頭長直(一)

蟹江 元

寛永七年(一六三〇)に、江戸城の能舞台で稽古があり、忠利の子息光尚も役を仰せつかり、浅野長重と旗本の永井直清が来られ、稽古をやるうと申された。忠利が忠興に書状を送っている(「寛永七年七月十七日付三斎宛忠利書状」)。ただ永井は上達しないと忠興の書状(「同年八月二日付忠利宛三斎書状」)にあるので無理強いやらされた(『江戸城の宮廷政治』)とするが、のち寛永十二年に伊達政宗が饗応した江戸城二の丸における能で道成寺を演じる(『徳川実紀2』)ので上手かどうかはともかく家光の御伽衆として活躍(この時は山城長岡二万石の大名)したのでやらされていたわけではない。

長重は、江戸能と金春重勝の勧進能目録を忠利から進上された(寛永五年四月二十二日付三斎宛忠利書状)こともあり、長重も大名の素養として忠興から教わり見識もあった。

細川忠利が忠興に送っている書状(「寛永八年三月五日付三斎宛書状」)によると、本丸年寄衆の酒井忠世は、行き過ぎた能楽師を見せしめに流罪にする提言を將軍家光に行ったが、家光は余りにも奢る場合は曲事(く

せごと)として罰すべきと言うが、提案は受け入れなかった。家光お気に入りへの能楽師が酒井の言う行き過ぎた能楽師に含まれていたとみられる。忠興・忠利はこうした能役者の驕る状況を苦々しく思っていたとみられる。能楽師に扶持を与える大名は多く出ていて、浅野長直もその一人で、実は細川家も初代藤孝以来代々能を愛好し、金春流の中村家などの能楽師を召抱えていた。凝った能道具も伝えられている(『永青文庫所蔵細川家にみる大名文化展』)。細川家は能の始まりの神事能を大切に守り伝統的な能文化を基本に置いていた。伊達政宗は能を交際に必要な教養を越えて外交戦術として捉えていた。また、將軍家光の好みに応じた能編成も巧みに対応し、自身が主役の能役者として振舞い、専門役者に注文をつけるプロデューサーの役割も演じ、勧進能で金剛大夫にやり直しを要求したことは有名な語り草となった。

当時能役者は身分が定まらず、武士や町民が演ずる素人能も盛んで専門役者に弟子入り自家で完結した編成をできる大名家も多くあり細川家でも行われたが、伊達家の能を不快に思う考え方の相違があった。先述の寛永十二年の政宗が家光を饗応した能に出演した大名は將軍の御伽衆であり、能のあとに政宗の小姓が風

流踊りを催し家光の好みに合わせたわけが政宗も家光も素人能を好み、特に政宗は素人が情熱的に演じる姿を好んだ。

長直も長重の文化的側面を継いだわけだが書状の通り、まだ三年は若過ぎる、家内を固めてから、及び健康に留意と言うことだった。内政の順序が異なるとの指摘だった。けれど細川家は驕る能楽師への批判あるいは政宗や永井のような外交色が強く踊りも加えた芸への批判を込めたと思われる。長直には細川家も大同小異に見えたとはいえない。長直は細川家の能の取り組みが伝統に根差し水準が高いことを知る術はなかった。長直の能の取り組み方針は伝わらないため断定できないが、行状から容易に伊達流即ち御伽衆の能と推定できる。長重も長直ほど極端ではないが、外交交渉で浅野本家の名代を務める立場で交際上派手になるところがあり、能も外交手段の考えはあつたにちがいない。多くの人脈に繋がった。元和八年(一六二二)には真壁領と合わせ笠間五万三千五百石となった。それでも出費が多く長晟から元和九年に銀三十貫を借りたりしている。長直はいまだ駆け出しで若く長重の外形のみ捉え、とことん追求する面があつたかもしれない。

連歌については、連歌合わせだけでなく俳諧連歌と言われる俳句や狂

歌の勃興が見られる時期であり赤穂における俳句文化の豪勢を一役担った可能性があり能派生の謡曲もまた然りである。

長直は、この諫言事件を経てすぐに駿府御番を任命され、それ以降も多くの課役をこなしたとはいえず、浅野本家に加え年寄衆の稲葉正勝も巻き込んで夜遊び、浪費などのふしだらな生活の指摘は教訓になったのは事実だろう。この切り替えは、優れた人物ならば早く改善できる。

「米沢通鑑要(らんよう)」には上杉綱憲(つなのり)は、吉良家の主導で大規模な書院や能舞台を造営したとあり、元禄三年(一六九〇)には、能楽師金剛五郎四郎を召抱えて江戸城で能楽を演じており、この時だけで千両を浪費したとする。元禄十年(一六九七)に江戸城で能を演じたのは、五名で上杉、伊達、佐竹などの能に金をつぎ込んだ大名である。綱憲についても、能は上杉家の財政を悪化させた一因と言われている。ただし細川家当主は、幕府との遠近感について伊達・上杉・佐竹の豊臣系大名と細川家について洞察ができなかったかもしれない。遊ぶことで当時猜疑心が強かつた幕府の目をそらしたともいえる。

「小林輝久彦・第二章赤穂事件と吉良家・上杉家第二節松の廊下刃傷事件」『上杉と吉良から見た赤穂事件』

によると「宛名及び脇付は、諸大夫に過ぎない長直が、従四位下左近衛権(さこんえごん)少将を極官とする細川家当主に宛てる書状としては、書札札に適合しない非礼なものとなつていたのである。長直は赤穂刈屋城の築城・新田の開墾及び塩田の奨励を行った名君と評されているが、実際は奸臣といふべき側近ばかりを重用し、酒や女色に耽り、金銀を浪費し、自堕落な生活を送る、わがままで非礼な人物であつたのである。この祖父長直の人物像は「自分に阿諛追従(あゆついしよう)する者を近臣として登用し、女色に耽り、自堕落な生活を送る」という点において「土芥寇讎(どかいこうしゅう)記」が描く長矩像と重なるのである。俗に「血は争えない」という。そうすると「土芥寇讎記」の記述もあながち誤つていないといえるのではないか。そうであれば長矩の人物像は、先述の義央の人物像とはまさに対照的なものであり、長矩が義央を堅苦しく思うのも当然である」としている。しかし、あくまで長直の若き笠間時代のことで、かつ忠利の諫言に女性についての記述は無いうえに、能・連歌に対する当時の武家の理解に欠けているところがあるように思える。また、能では上杉家を指導して能に金を使わしめ上杉家の財政悪化の一要因を創つた吉良義央の指導にも疑

問が残る。

書札についても、当時の細川・浅野両家の親子親族同等の関係を黙殺しているなど、批判は的を得ていないが、書札札も吉良の指導業務で、上杉家で指導の痕跡が古文書に残り、それを見ると儀礼の形式化もまた費用増につながっているわけである。

『土芥候讎記』は幕府の隠密の調査とされるが浅野長矩についてその内容は事実として根拠がない女色の話が基本であり、本来記事になるはずの武士の削減や経済政策の転換などの記載がなくなつたまま浅野家が長直、長友、長矩と短期間に当主が代わり、小さな赤穂浅野家の調査はしていないことが明らかで信頼性は極めて低いと筆者は考えている。

なお、後藤論文は、長直の寛永十年のごく若い頃のことと限定し、寛永十一年には、まわりの大名の支えがあつたのだろうか。駿府城の御番に任命されるまでに成長したとしている。

生活態度の切り替えは周囲の支えがなくても深く心に刻み対処したのではないか。先述したが、この諫言がその突起となつたのは事実だろう。

また、別の忠興の忠利宛の書状には、細川家臣たちへの祝儀について大名はお断りだが、長直のことは格別なので拝領お受けしなさいと申し付けとあり、細川本家と浅野笠間支藩家の関係は別格の存在だと言うの

である(寛永十年二月二十五日付長直宛忠利書状)。それを受けた忠利書状を次に示す。

「長直宛て細川忠利書状」

(略)

津川四郎右衛門・中庵・か、山主馬・澤村右衛門二御小袖一重宛非遣候、何もへ八御理申入候へ共、貴様之儀者各別二而御座候間、拝領仕候へと申付候、寄思召忝存候

(略)

これで書札の謎が解けるだろう。非礼を越えた間柄であり、十三ヶ条を子のつもりだからこそ結果として三ヶ条としたが、これほどの諫言を書いたわけである。

しかし、細川忠利は、別の隠された意図があつたかもしれない。実は忠興・忠利と長重の関係は特別で長直にまでそれを望んでいたのか。いずれは浅野家支家としての立場を望んでいた可能性もあるだろう。

浅野長重と細川忠興の親密な関係の発端は慶長五年(一六〇〇)に細川忠興と浅野長政の人質として三男の細川忠利と浅野長重が江戸で家康・秀忠の傍に人質として接したことにある。細川忠興は、忠利と同じ三男という立場の長重に特別な感情を抱いて、忠利と長重は実の兄弟のような関係になつた。また、浅野本家も負い目があり、幸長(よしなが)そして次男で幸長を継いだ長晟(ながあきら)も長重に気

を使った。長重は、家康に認められ同年に従五位下采女正に叙任され、慶長六年には下野国真岡二万石の大名となり、翌年の十五歳で竹谷(たけのや)松平玄蕃頭(げんばのかみ)家清の娘を家康養女として縁組を仰せ付けられた。この竹谷松平家は、三河吉田(豊橋市)藩三万石で家清の子忠清が無嗣で廃絶され旗本として残つた。名門竹谷松平家が大名として残れば、真岡浅野家も三河門閥大名の一角を占めた可能性もあつた。忠清の弟清昌の子が赤穂分家の家原浅野家初代長賢である。

細川忠利は徳川秀忠の推挙で細川家当主となつた。嫡男は石田三成の挙兵で忠興の妻玉(ガラシヤ)が死亡したが嫡男忠隆の妻(前田利家女)は逃れ、忠隆がこれを弁護したため廃嫡された。次男の興秋は忠利の代わりに入城し、のち忠興が自害を命じた。忠利の細川家当主はこうした背景で成立した。

長重は慶長十六年に長政遺領の内、真壁を拝領した。元和六年(一六二〇)四月五日には、浅野長晟から、昨年からの名代を謝された。即ち元和五年から浅野家本家名代として個別交渉に責任を持っていたのである。なお、浅野長政の府中塾居の原因となつた事件は、徳川家康が長政などと仕組んだ謀略との説が有力とも言われる。塾居のあと隠居料

として家康が五万石を与えた。長重はこれを相続したわけである。

元和五年十一月に浅野長晟は浅野(安井)左衛門佐知近(ともちか安井系図の氏重?)を成敗した。この知近は浅野長重の人物を見込んで、浅野本家世継に推した人物である。翌年には、三原城代を望んだ知近に長晟は三吉(のちの三次)を宛がい対立し知近を成敗、知近の子の伊豆守知吉(ともよし)に切腹を命じた。長重は幕閣の土井利勝などと交渉して本家の窓口役に徹しお家騒動のリスクを消した。長重のことを心配した細川忠興は知近成敗の件を、嫡子忠利に報じている。赤穂浅野家の家老安井氏はこのような背景もあり、江戸家老としての立場を歴代確保したと筆者はみている。

寛永九年(一六三二)九月三日長重が病気で逝去し、また長晟が江戸に向かう途上で逝去した。忠利や忠興は長重の病状を心配し、忠利は長重の子の長直や家老大石良勝や長直室の父丹羽長重に見舞使者を出したりしている。細川忠利は光晟などと共に浅野長重から後見人を頼まれていたことは先述した。他に細川家と長重の関係を探すと、長重が細川忠興の茶道の弟子であったこと、また「堀内伝右衛門覚書」「赤穂義人纂書」には片岡源五右衛門高房が細川邸座敷の釘隠九曜紋を見て長重が細川忠

興を真似て武具・指物に使ったと語った話を載せている。

幕府にとつて長重との特別な関係の時代は終わり、長直の時代には浅野支家としての序列でしかなかった。浅野長直の笠間から赤穂への転封は左遷と見方も有力と言われる。確かに外様を笠間に置くことは、幕府にとつて少なくとも得ではない。当時最も危ないと思われた岡山池田家への押えとして、適任として譜代圏から押し出されたのは間違いないだろう。

筆者は浅野長直が家督を継ぎ、譜代大名あるいは將軍の御伽衆への道筋を描いていたと考えている。斎藤茂『赤穂義士実纂』によると赤穂浅野家は譜代であったとするが、江戸城控の間はその取扱いではなくいわば準譜代だっただろう。將軍家光の御伽衆の一人である永井直清の父は浅野氏の入城前の笠間城主のため永井と長重が懇意だったわけだが、それ以上に長重も能を交流の道具とした可能性はあるが、浅野本家を越えて永井のような將軍御伽衆入りはできなかつた。長直も將軍御伽衆丹羽長重の娘を正室にして、家光の御伽衆を目指し派手な性急な動きを重ね、細川忠利とは相容れなかつたのではないか。細川には過度な遊びとして表面しか理解できなかった。

笠間は譜代・御伽衆を目指すには絶好の場所だが、幕府はそれを分かっ

ていて大坂在番のまま赤穂への国替えを命じた。

長直のこととん追求する性格は、事業判断を踏まえ城郭建築、内裏造営、塩田の開発、水道の開発など幕府や浅野家に業績を残したが、一方で投資過大の内政を課題にした。長直にとつては、転封により新天地で希望に燃え、新たな青写真で赤穂に大きな業績を残したことは間違いない事実である。

日比谷右近について述べたい。安政六年(一八五九)成立の堀部次郎『誠忠武鑑』に内匠頭の児小姓に日比谷右近と言う美少年が居て、吉良義央が、所望したが断つた。ところが、大老堀田筑前守に内匠頭が招待されたとき、右近を所望され大老にさしあげたところ、内匠頭に遺恨を抱いたと言うものである。『誠忠武鑑』の前の根本とみられる「忠義武道播磨石」は事件に近い宝永八年(一七一二)に出版され、日比谷右近という人物名そのものは事実無根と言えるが、男色好きの長矩については噂が既にあつたということだろう。

なお、松宮観山については赤穂義士不支持(「湊元克巳・江戸時代に於ける赤穂義士の復讐是非論」『歴史公論14赤穂義士特別号』)とされ、筆者は「田中佩刀・赤穂義士論に関する考察・近世武士道論序説」『明治大学教養論集191号』に拠った。ま

た後藤氏は細川・浅野家は藤原惺窩との交流によるとあり筆者は別の視点から展開した。

#### (参考文献)

- ・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター1年報第7号・熊本大学文学部附属永青文庫研究センター12016
- ・江戸城の宮廷政治 熊本藩細川忠興・忠利父子の往復書状・読売新聞社1993
- ・大日本近世史料細川家史料・東京大学史料編纂所1969
- ・徳川実紀2・経済雑誌社1904
- ・黒板勝美編・新訂増補国史体系 徳川実紀・吉川弘文館1981・1982
- ・永青文庫所蔵細川家にみる大名文化展・そごう美術館1994
- ・「竹本幹夫・細川藩関係資料に見る江戸時代初期の能楽」『能研究と評論17』・月曜会1989
- ・表章 天野文雄・岩波講座能狂言I能楽の歴史・岩波書店1987
- ・小井川百合子・伊達政宗言行録―木村右衛門覚書・新人物往来社1997
- ・「米沢通鑑要」『鶴城叢書』(市立米沢図書館)
- ・青木昭博 小林輝久彦・上杉と吉良から見た赤穂事件・米沢信用金庫2017
- ・金井圓校注・土芥候讎記・人物往来社1967
- ・鍋田品山輯録・赤穂義人纂書・国書刊行会1910
- ・赤穂義士実纂・赤穂義士実纂頒布会1975
- ・寛政重修諸家譜 永井 松平 細川 安井
- ・誠忠武鑑・大昌閣1909
- ・博文館編輯局校訂「忠義武道播磨石」『赤穂復讐全集帝國文庫』・博文館1896
- ・歴史公論14赤穂義士特別号・雄山閣1933
- ・明治大学教養論集191号・明治大学教養論集刊行会1986

## 社員総会報告等

山北浩史

## 社員総会

令和七年六月二十二日(日曜日)、「第二回一般社団法人中央義士会の社員総会」が開催されました。昨年開催された社員総会は、設立間もなくの第一期であり、事業年度が短く、活動の主体は法人化の前身である任意団体でした。第二期では、一般社団法人としての本格的な事業活動が展開され、その活動報告等を議案とする総会となりました。

総会は泉岳寺講堂において、会員各位が一同に参加するだけではなく、Zoomでも参加することができ、皆様が参加しやすい方法で開催されました。午前十時、定刻となり、松岡専務理事によって開会が宣言され、柿崎理事長が議長に就任し、第二期の事業内容・貸借対照表・損益計算書等の報告、第三期の事業計画及び収支予算、理事及び監事の選任についての審議が行われました。活発な質疑等があった後、審議事項については満場一致で可決・承認されました。十一時三十分、松岡専務理事による閉会の辞があり、総会は滞りなく終了しました。本総会によって実質的な組織的意思決定が行われたことを振り返り、ここで、中央義士会の歴史を振り返りたいと思います。

## 中央義士会の歴史

歴史の見方には「通時的視点」と「共時的視点」があると言われています。前者は、現在から過去の歴史を通して見る方法で、後者は、当時の人々と同じ視点に立ってその時代のことを考えようとするものです。この両視点から当会の歴史を見ようと思います。

一九〇八(明治四十二)年十二月十四日、福岡・

崇福寺において、第一回義士会(四、五百人が参加)、一九一(明治四十四)年十二月十四日、東京・泉岳寺において、第四回義士会が開催されました。一九一六(大正五)年二月二十八日には、福本日南が創立委員長となり、中央義士会を誕生させ、規約が制定されました。同年十二月十四日には、泉岳寺で赤穂義士の祭典があり、その後、中央義士会の発会式が開催されました。一九三三(昭和八)年十二月十四日、財団法人中央義士会が文部省により認可され、成立しました。

一九三一(昭和六)年、「赤穂義士史料 上巻・中巻・下巻」(編纂者 中央義士会・代表者・亀岡豊二)が雄山閣より発行されています。本書は元禄赤穂事件の研究には欠かせない資料集として今も使われています。

一九三四(昭和九)年には、主催・素行会(明治四十年設立)と財団法人中央義士会、後援・文部省、東京府、東京市、神宮奉斎会等、総務委員長・井上哲次郎博士により、日比谷公会堂において、山鹿素行二百五十回忌があり、官幣大社宮司宮西惟助氏齋主による祭典が行われています。参会聴衆は三千七百名以上、入場できなかつた者が多数あり、場外に溢れ、集まる者は五千名を上回ったといわれています。

二〇一三(平成二十五)年十二月一日、財団法人中央義士会は、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第四十六条の規定」により解散となりました。その後、新体制を整え、令和五年十二月十四日に一般社団法人中央義士会が設立されました。

アメリカの経営史学者であるアルフレッド・チャンドラーは、「組織は戦略に従う」ことを提唱しています。環境変化に適合し、これに対応することを

「戦略」と言いますが、その戦略があつてはじめて、組織のあり方が決定されます。今後も引続き、適切な組織づくり・組織力の強化によって、当会は持続し、その目的達成に向けて活動していくことが期待されます。



総会出席者

## 参考資料

- 中央義士会の歴史については左記文献を参照下さい。
- 「財団法人中央義士会会報第五十九号」
- 「山鹿素行」(著者・山鹿光世)
- 「史料学」講義(著者・小島道裕)「

## 平成堀内組（中央義士会山鹿支部）の今日

平成堀内組頭取 宮川政士

私共のこの会も支部スタートより20年を超える。

学生時代、大崎に居住したご縁で、数十年後に高輪・泉岳寺へおじゃましたのが中央義士会との出会いである。

あと3年後、刃傷松之廊下から300年、翌年討入り300年、翌々年義士切腹300年と忠臣蔵ブームの最中であった。

山鹿には「八千代座」という芝居小屋があり、昭和の頃は映画もやっていた（当時時代劇が多かった）。

そんな中で、5歳ぐらいからよく観たのが忠臣蔵であった。よく意味がわかっていたのか疑問だが、子供心に興奮したことを覚えている。

そんなことで、「八千代座復興」にもお手伝いが出来た（それから40年経過）。

そして、忠臣蔵と山鹿の関係に目覚め、20年、色々なところで、いろいろな人達の話聞き、視野を広げていくうちに、忠臣蔵と山鹿の深い深いご縁が明らかになっていった。

まず、日輪寺・義士遺髪塔、そして、お世話した堀内伝右衛門ご夫妻の墓、その時代を経てきた人達の歴史がそのまま山鹿に残ったのである。

来年（令和8年）は堀内伝右衛門の300回忌を迎える。

地元の堀内組の皆さんが残した250回忌の顕彰碑がご夫婦の墓所の横に残る。

それから50年、いよいよ300回忌を迎えるのである。

数年前始まった八幡公民館講座の「赤穂事件」も毎月1回、4年間続いた。

いみじくもコロナ禍の時、制限された中で受講生の皆さんの熱心さに、繋がりは今も続いている。

2月4日の義士まつり、伝右衛門ご夫婦の墓前祭、遺髪塔供養祭、本堂内での催し物等々、8月26日・伝右衛門祥月命日、12月14日の交流会と、いまもなお出会いの機会を作ってくれている。

昨年より始まっている来年の300回忌に合わせ、「忠臣蔵サミット」開催も決定し、来年1年間を「伝右衛門300年イヤー」にしようとお官民あげて準備中である。

全国の忠臣蔵ゆかりの地の皆さん、来年はぜひ山鹿の地へお越し下さい、まちをあげて皆様をお迎えいたします。

## 新潟支部の活動

新潟支部支部長 関根正隆

新潟支部として活動する新潟県新発田市では 2013 年に堀部安兵衛安兵衛を顕彰する武庸会が 100 周年を迎えました。このことが大きな転機となりました。

100 周年記念式典や講演会なども開催され、大いに盛り上がり、武庸会の活動や安兵衛を周知することには繋がりました。ただ、歴史に関心を持つ人はどうしても限られてしまい、忠臣蔵を知らない若い世代へアプローチという面では課題もありました。この年、奇しくもハリウッド映画『47RONIN』公開があり、歴史に関心がない人も PR しようと新発田と赤穂のラーメン店が協力して「忠臣蔵」をテーマにしたオリジナルラーメンを作ってもらった企画「47RAMEN」を実施しました。「RONIN」と「RAMEN」の綴りが似ているというだけで初めて企画でしたが、映画の評価はともかく、新潟では大きな話題になりました。

この時、赤穂には日本有数の牡蠣があるというところを知り、この翌年から赤穂の牡蠣を新発田の飲食店で提供する「しばたオイスターバー」の開催が始まりました。赤穂から届く牡蠣を、新発田市内の飲食店が趣向を凝らした料理に仕上げ提供し、当初は 8 店舗ほどの参加者でし

たが、赤穂の牡蠣の美味しさから、年々、参加店が増え、今では市内 30 店以上が参加。オーピングイベントとして行う市役所の広場で行う「牡蠣びらき」には多くの来場者が集まり、冬のまちに大きな賑わいを生み出しています。

今では、忠臣蔵や安兵衛は知らなくても「赤穂の牡蠣」は知っているという市民も多く、本末転倒では？と思われるかもしれませんが、新発田の飲食店経営者が団体で赤穂を訪れるという計画もあり、新発田での赤穂の牡蠣の定着が一回りにして、忠臣蔵と安兵衛への関心に帰ってくると、私は確信しています。

実は 2013 年まで、新発田の武庸会と中央義士会や赤穂との関係は皆無と言って良いくらいでしたが、100 周年を前に実施したパレードの情報を聞きつけ、赤穂の矢野支部長が、ゆるキャラ「陣太くん」と一緒に新発田へ応援に駆けつけてくれました。これが現在の連携と「しばたオイスターバー」はじまりです。この場を借りて、矢野支部長に感謝申し上げます。

私は、「地域連携」と「食」ということが広い世代に向けて PR していくためのキーワードになっていくように感じています。今後とも各支部の皆様からご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 「継続は力なり」

豊岡支部支部長 渡邊信和

二〇二五年九月六日〜七日、第四回大石吉之進まつりを開催、無事終了しました。

前々日までの台風の影響の雨も止み、暑さがぶり返す中、三一六回忌墓前法要を高野山真言宗の矢野尾祐聖導師の読経をはじめ、参加者十三名の焼香が粛々に行われました。当日は吉之進の会員、豊岡の忠臣蔵関係団体、読売新聞社熊谷記者、元産経新聞大阪本社特別記者の安本氏など、「古里の歴史と誇りを守る」会の活動を理解、応援していただいている方たちの参加があり、心強く思いました。

翌七日は絆（きずな）創り交流会イベント、約六十名参加で講談（旭堂南歩氏の俵屋玄番）落語（地域おこし協力隊出身の桂ぎん次郎さん）ら又岡本順子 Jlove ファミリーのリードで参加者全員の歌おう会で盛り上がり、来年の再会を約束してお開きとしました。

二〇二六年は定例の墓前法要、交流会のほか歴史勉強会。講談会など令和の忠臣蔵の豊岡の繋がりやの輪を広げたいと思っています。さて当面の最重要課題は後継者の育成です。今後継続をするためには、若い人達の参加をどう構築して行くのか？この課題は今この組織でも共通の悩みであると思います。豊岡の忠臣蔵の歴史、花影の花―大石内蔵助の妻「大石理玖」は妻の

鏡として豊岡の地では偉人として語り継がれて来たもの、おそろくいつの時代からか顕彰が薄れてしまい、現在は理玖の名前さえ知らない市民が増えているのが現状です。

私たちが後輩に忠臣蔵の何を伝承して行くのか？若い人達が忠臣蔵の心を理解してくれ、るのにはどうすればいいのか？

現代の AI 時代にこそ必要な人と人との心のふれあい、忘れられがちな日本人の心、忠臣蔵のドラマに描かれている忠義だけでなく、親子の愛、夫婦の愛、男女の愛、仲間の友情……令和の時代にふさわしい令和版の忠臣蔵の創出に励みたいと考えています。

会の基本理念「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の八徳の実践「古里の歴史と誇りを守る」ことを今後も継続してゆきたいと思えます。



316 回忌墓前法要



歌おう会



旭堂南歩氏の俵屋玄番

# 伊豆大島間瀬定八墓参

萩原 栄

令和 7 年 6 月 24 日、25 日と伊豆大島へ行く機会があったので、25 日に間瀬定八の墓参を行った。24 日朝 10 時に竹芝棧橋を高速船で出発、11 時半に本町港に到着。

実は平成 17 年 4 月に中央義士会が 17 名ほどの人数で伊豆大島の間瀬定八の墓参を行ったことがある。その際には伊豆大島の間瀬定八顕彰会と合同で墓参と懇親会を行ったが、筆者は同行できなかった。

それもあって、出発の直前ではあったが、その時の間瀬定八顕彰会会長平塚正彦氏（現在は波布比咩命神社禰宜）に連絡を取ることができ、案内を快諾していただいた。ちなみに波布比咩命神社は都はるみの歌で有名な波布港にある。

間瀬定八は四十七士の間瀬久太夫の子で、討入りの連座により、他の 3 名（吉田伝内、村松政右衛門、中村忠三郎）と共に伊豆大島に流されたのである。3 年後の宝永 3 年 9 月に罪は許され遠島の罪人は江戸へ戻ってこられたが、間瀬定八一人、前年に病死し戻ってこられなかったのである。

間瀬定八ら 4 名は元禄 16 年 4 月に大島に上陸、4 人は厚遇され、罪人扱いはされなかったと言われている。一般的に流人は粗末な掘っ立て小屋に住み、惨めな生活をしてきたのだが、平塚氏の説明では彼らは、地元の家を借りて住み、ひどい生活ではなかったのではないかと推測されること。写真 1 の建物は江戸時

代の隠居所で、4 人はこのような家に住んでいたのではと思われる。

間瀬定八は現在、元町の共同墓地に葬られているが、現在の共同墓地は後に移転されたものである。共同墓地の入り口に説明文と配置図があるので間瀬定八の墓の位置は分かりやすい（写真 2）。写真 3 は間瀬定八の墓。この後、金光寺に建てられた間瀬定八の供養塔にお参りした（写真 4）。供養塔は平塚氏が建立したもので、寺の本堂に続く参道の左側にある。

この後、大島町郷土資料館などを訪問し、帰りは波の関係で、岡田港から乗船し竹芝棧橋に戻ってきた。突然の連絡にもかかわらず、案内を快諾していただいた平塚正彦氏に感謝いたします。



写真 1  
隠居所 江戸時代の隠居所を移築 大島町郷土資料館



写真 4  
間瀬定八の供養塔 金光寺



写真 3  
間瀬定八の墓 共同墓地



写真 2  
共同墓地の入り口 右側平塚正彦氏 左筆者

# 令和7年忠臣蔵講座の報告

萩原 栄

今年の忠臣蔵講座は、都内の忠臣蔵史跡を刃傷事件から、赤穂義士の切腹までを時間を追って巡ってきた。ただ、8月は熱中症などの危険を避けるため、泉岳寺の講堂をお借りして冷房の効いた室内で講座を行った。毎回40人を超える方の参加があり盛会となった。

3回目は6月1日に「討入りの地」と題して錦糸町から、両国吉良邸、堀部弥兵衛宅跡を巡った。ガイドはいつもの大ベテラン遠藤さんと熱血ガイドの磯貝さん。添乗員として参加者の安全を見守る大西さんが同行した。

JR錦糸町駅を出発し、赤穂浅野家本所屋敷跡から杉野十平次宅跡、堀部安兵衛宅跡、討入りのあった吉良邸跡を巡り、両国橋を渡り討入り前に全員が立ち寄った堀部弥兵衛宅までの行程である。赤穂浅野家本所屋敷跡は現在都立両国高校になっていたり、堀部安兵衛宅跡は公園になっていたりで、320年前とは全く様相が違っているが、そこは当時の様子が目に浮かんでくるようなガイドの説明であった。

4回目は8月3日に猛暑の中、「討入り口上書はいかにつくられたか」と題して、泉岳寺の涼しい講堂で講義が行われた。講師は柿崎さん。

討入り口上書の原案は堀部弥兵衛だとこれまでの研究者は考えてきたが、実際は割腹自殺した萱野三平の遺書が元になっていることを、講

師の柿崎さんが発見し、11年前に発表している。その内容を討入り口上書と遺書とを比較して詳細に説明された。

5回目は10月5日、「切腹の地」と題して大石内蔵助らが切腹した細川越中守下屋敷跡、間十次郎らが切腹した水野監物中屋敷跡、堀部安兵衛らが切腹した松平隠岐守中屋敷跡そして、岡島八十右衛門らが切腹した毛利甲斐守下屋敷跡を巡った。ガイドは大ベテランの遠藤さんと沖田さん。添乗員はいつもの大西さん。

細川家下屋敷跡は唯一切腹した跡地が東京都史跡として残っているが、水野監物中屋敷跡はJR田町駅近くの家々の中にひっそりと小さな碑が残っているだけである。松平隠岐守中屋敷跡は現在イタリア大使館に、毛利甲斐守下屋敷跡は六本木ヒルズになっている。丁寧なガイドの説明に全員聞き入っていた。(写真坂藤美子)



6月1日3回目 両国橋にて1班



10月5日5回目 大石内蔵助らの切腹地跡で 参加者全員



6月1日3回目 両国橋にて2班

## 中央義士会理事会

## 新潟新発田長徳寺にて開催

松岡康彦

昨年六月北泉岳寺での北海道支部理事会開催に続き令和七年は新発田市松霊山長徳寺での新潟支部理事会開催が決まりました。本部支部各理事の予定を調整した結果六月十三日（金）に開催することとなりました。

十三日、本部と各支部から新潟空港に集合。十四日（土）同解散で各理事の日程調整を開始。熊本山鹿支部長宮川政士理事、播州赤穂支部長矢野英樹理事の代理で目木敏明支部顧問、京都支部長能瀬英和理事、静岡支部長遠藤信夫理事。本部からは富岡克相談役、柿崎輝彦理事長、荻原栄副理事長、山北浩史監事、松岡康彦専務理事、昨年実施した忠臣蔵検定で忠臣蔵博士認定となった上原益雄、東結菜ご両人も参加することになりました。東京組は泉岳寺に集合しレンタカーで新潟空港に向かい十二時に各支部理事と合流。新発田「松霊山長徳寺」にレンタカー二台で入りました。長徳寺での理事会は先ず全員で武庸会総会に参加。武庸会は大正二（一九一三）年二月四日安兵衛の命日に設立した伝統ある会です。高橋正明会長を初め役員と会員の皆様から堀部安兵衛武庸への強い思いが伝わってきました。総会後記念講演会として柿崎輝彦理事長が演題「高田馬場の決闘の真実」の話をしました。江戸町民から大名迄江戸中に知れ渡った決闘の史

実を解説。講演終了後に司会を担当したFMしばたの方からインタビュアーを受けました。

その後武庸会嶋谷顧問経営の「志まや」に移動し懇親会となりました。新発田市長の代理で渡辺貴守観光振興課長にも参加いただきました。総会で感じた以上に皆様の安兵衛への熱い思いが伝播してきました。

十四日は新発田市内にある安兵衛の縁の地を、武庸会役員の皆様とマイクロバスで見学。安兵衛の母「るい」は産後直ぐに死亡。お墓は「松見山法華寺」にありこのお墓の前に安兵衛は十九才で新発田を発つ迄小さい時から何回も来たのだろうなと思いを寄せたら、安兵衛に会えた感じがし涙腺が弛みました。明治の大実業家大倉喜八郎の別邸「蔵春閣」で昼食、素晴らしい内装での食事は味も気持ちも大変良かったです。熊本山鹿支部長宮川政士理事は「ここ新発田は堀部安兵衛の出生地であり、私が学んだ東京経済大学の創始者大倉喜八郎氏の出身地であるので今回伺ったところ、驚いたのは地域で、歴史を踏まえて安兵衛を大切に護っておられることでした」と感慨深く語ってくれました。播州赤穂支部目木敏明顧問は「安兵衛が切腹したイタリヤ大使館の土が納められている長徳寺安兵衛の墓に手を合やす事ができ、熱いものがこみ上げました。毎年冬になると沢山の新発田市民が赤穂の牡蠣を食べているとのこと。今も切っても切れない関係に殿様もびつくりされているのでは。赤穂義士安兵衛の顕彰を永きに続けている武庸会に感謝！」とのことです。

今回の新潟理事会開催には武庸会竹内孝浩監事、

関根正隆住職との度重なる打合せをさせていただきました。誠にありがとうございました。高橋正明会長と役員皆様の安兵衛への強い揺るぎない思いに接したことは、忘れることができません。中央義士会理事監事と博士両名への心底からのもてなしに、深く感謝いたします。ありがとうございました。



参加者全員 長徳寺にて

# 忠臣蔵愛好会のご案内

## 赤穂義士引揚げルート歩く

恒例の「赤穂義士引揚げルート歩く会」を下記要領にて開催いたします。  
中央義士会が長年検証してきた実績をもとに、より史実に近いコースを歩きます。  
参加者は全員トラベルイヤホンを着装し、歩きながら説明を聞き、昼食もセットされている  
安心快適なツアーとなっております。是非ともこの機会にご参加ください。  
赤穂義士が実際に本所吉良邸から高輪泉岳寺まで引揚げた元禄15年12月15日は今日の  
新暦に置換いたしますと実施日と同じ1月31日にあたります。  
尚、昼食会場の都合上、お申込み受付は先着60名様までとさせていただきます。

- 日時：令和8年1月31日（土） ※雨天中止、小雨決行。  
集合：9時00分 JR総武線 両国駅 西口改札付近 時間厳守  
出発：9時30分  
16時00分 泉岳寺到着予定
- ルート：両国駅 ～ 永代橋 ～ 築地本願寺 ～ 田町 ～ 泉岳寺 約12km
- 主な立ち寄り地：（途中、随時トイレ休憩をとります）
  - ①吉良邸跡（本所松坂公園）
  - ②播州赤穂浅野家上屋敷跡（聖路加国際大学）
  - ③西本願寺（築地本願寺）  
※昼食休憩（予約済み会場）
  - ④播州竜野脇坂家上屋敷跡～陸奥仙台松平家上屋敷跡（日本テレビ）
  - ⑤御田八幡神社
  - ⑥高輪泉岳寺※説明：中央義士会会員

会費：5,000円（税込） ※昼食代含む

資料代：当日、別途資料代を徴収します（コピー1枚につき10円）

申込：株式会社阪急交通社 ナビダイヤル 0570(03)8689

《受付時間》月～金曜日／9:30～17:30 土日祝／9:30～13:30  
ただし、土日祝は電話受付のみとなります

‘阪急交通社’で検索 コース番号：3A140K

以上

企画協力 一般社団法人中央義士会  
後援 NPO法人忠臣蔵倶楽部 ・ 一般社団法人日本街道ガイド協会  
企画実施 株式会社阪急交通社

## 令和 8 年忠臣蔵講座

中央義士会 萩原

令和 7 年の忠臣蔵講座は「地図を持ち街へ出よう」と題して都内の史跡を巡りました。  
令和 8 年の忠臣蔵講座は、トピック的な出来事と歌舞伎など文化への影響などについて泉岳寺の講堂で講座を開催します。

[開催場所] 港区泉岳寺講堂

[日時と内容](講師名敬称略)

第 11 回 浅野家と大石家、吉良上野介とは・・・2月 22 日(日)

浅野、大石、吉良の出自などについて。

講師 蟹江

第 12 回 急進派(堀部安兵衛ら)と穏健派(大石内蔵助ら)の対立・・・4月 5 日(日)

一枚岩と思われていた討入りも、途中で分裂の危機がありました。

講師 萩原

第 13 回 赤穂義士の遺児とその後・・・6月 7 日(日)

討入り後赤穂義士の遺児はどうなったのか。

講師 萩原

第 14 回 忠臣蔵概論(1)・・・8月 2 日(日)

忠臣蔵の伝承と変遷。

講師 柿崎

第 15 回 忠臣蔵概論(2)・・・10月 4 日(日)

忠臣蔵の伝承と変遷。

講師 柿崎

[参加費] 金額は別途

・会員 1,000円/回 5回分一括払いの場合 4,000円

・一般 1,500円/回 5回分一括払いの場合 6,000円

当日の配布資料は実費(10円/枚)をいただきます。

参加費をお支払い済みの方で、当日欠席された場合は当日の配布資料をお送りいたします。

[申込]

下記宛てに郵便局から青色の払込取扱票で、通信欄に参加者氏名と参加日を記入の上参加費をお振り込み下さい。

**一般社団法人中央義士会 00140-8-674575**

当日支払いも可能です。ただし、この場合も必ず事前にご連絡ください。ご連絡のない場合は、資料のない場合がありますので、ご注意ください。

また、下記のメールまたは F A X、架電でご連絡下さい。

メール chuogishikai@tokyo.email.ne.jp TEL/FAX 03-3630-1927

## 令和 7 年 一般社団法人中央義士会活動報告

進藤 務

月 日	事 項	備 考
1月4日	泉岳寺住持様ご挨拶・墓域参拝	泉岳寺
1月19日	田町リープラにて令和7年度会費振込依頼封入作業・臨時理事会	役員
1月26日	忠臣蔵愛好会 赤穂義士引揚げルートを歩く	企画中央義士会
2月4日	赤穂義士323回忌法要	泉岳寺 柿崎理事長他4名
2月23日	第6回忠臣蔵講座～刃傷事件の現場～	大手町～平川門
3月5日	高松桜祭り 切腹地公開	大石内蔵助ら切腹地
3月9日	浅野内匠頭追憶の集い、臨時理事会、新年度会費請求発送作業	泉岳寺、リープラ
3月12日	イタリア大使館赤穂義士法要	イタリア大使館、柿崎理事長他
4月6日	第7回忠臣蔵講座～内匠頭切腹の地並びに義士自訴の地～	新橋～虎ノ門
5月16日～18日	豊岡支部、赤穂支部訪問	柿崎理事長、松岡専務理事、能瀬京都支部
6月1日	第8回忠臣蔵講座～討入りの地～	錦糸町～両国
6月13日～14日	新潟支部訪問、新発田市にて臨時理事会開催、武庸会との交流	柿崎理事長他8名
6月22日	臨時理事会、第2回社員総会	泉岳寺講堂
7月12日～13日	忠臣蔵検定試験委員会 全義連会報40号発行・発送作業	検定試験委員
8月3日	臨時理事会 第9回忠臣蔵講座「討ち入り口上書はいかに作られたか」	泉岳寺講堂 泉岳寺講堂講師柿崎
8月8日	笠間訪問	柿崎理事長、松岡専務理事
9月7日	臨時理事会 福本日南墓前供養祭	泉岳寺講堂 泉岳寺
9月18日19日	忠臣蔵検定試験委員会	検定試験委員
10月5日	第10回忠臣蔵講座～46人切腹地訪問～	泉岳寺～六本木ヒルズ
10月6日	1回目検定試験セミナー	泉岳寺講堂
11月2日	京橋図書館第4回本森亭「忠臣蔵を聴く」	講演柿崎理事長
11月9日	2回目検定試験セミナー	泉岳寺講堂
11月12日	東京赤穂のつどい	都市センターホテル 4名出席
11月16日	岩屋寺式典	京都岩屋寺 3名出席
11月30日	再興第2回忠臣蔵検定試験 泉岳寺小坂前住職7回忌	泉岳寺講堂、各支部 泉岳寺、富岡相談役
12月7日	検定試験委員会、会報77号発行 会報発送作業	泉岳寺講堂、検定試験委員、編集委員
12月12日～14日	赤穂義士追憶の集い 赤穂義士祭	泉岳寺
毎月土日泉岳寺義士墓域ガイド 7月、8月は中断		

# 忠臣蔵検定の復活

柿崎輝彦

当会は、創立以来赤穂義士の偉業遺徳を顕彰するとともに、元禄赤穂事件に関する史実の研究・検証などを通して、主に学術的分野を牽引し、その普及に努めてきた。一方で、江戸時代を代表するこの事件は忠臣蔵として親しまれ、歌舞伎や浄瑠璃、講談、浪曲など日本の伝統芸能および大衆娯楽として人気を博し、長い年月を経て虚実織り交ぜ伝承されてきた。

昨今の日本文化の人気に伴う訪日外国人観光客の急増で、あらためて日本人の礼儀礼節伝統を重んじる文化や高い水準で規律を遵守する道徳観が海外から称賛され、それらを包括し体現した忠臣蔵が世界から注目されている。

忠臣蔵検定に挑むことで、元禄赤穂事件や忠臣蔵に対して、正しい歴史認識に基づいた知見を広め、更なる理解・造詣を深めていただき、国内はもとより海外に向けて忠臣蔵の素晴らしさを発信伝搬する機会の一助になることを願っている。

地域	氏名
世田谷区	石塚啓子
京都市	宇佐美弘
京都市	大石直人
豊岡市	岡本昭治
日向市	小川純平
相模原市	木内哲也
赤穂市	木下茂典
尾道市	木村奈々子
豊岡市	熊野加代子
港区	近衛忠大
杉並区	小林八千代
豊岡市	高橋雅樹
板橋区	高橋幸雄
赤穂市	寺坂長倫
板橋区	戸山賀夫
さいたま市	中田信彌
高槻市	中田宏幸
豊岡市	西田 真
戸田市	西堀秋子
港区	長谷川順子
京都市	藤綱勇作
福岡市	丸山理一郎
豊岡市	森本七重
豊岡市	渡邊信和

## 新入会員

## 編集後記

今年の夏は観測始まって以来の猛暑だった。そこで昨年の会報の編集後記を見ると、その書き始めも「今年の夏は観測始まって以来の高温となった」であった。国連を始め各国も地球温暖化阻止を掲げ省エネ・二酸化炭素排出の削減に動いている。そういう中、それに反対の動きをみせている大国もある。一部の気象学者も現在地球は間氷期から氷河期に入り始めているとも言っている。これはフェイクニュースなのか真実なのか。

忠臣蔵に関しては、最近フェイク記事やフェイク本の出版が少なくなっている、というかほとんど見当たらない。これは最近、忠臣蔵の人氣が下がっていることもあり、それによって書いても売れないので出版されないためかもしれない。昨年泉岳寺から史実の忠臣蔵本が出版されている。売れ行きはよいとのこと、一般の出版社からもたくさん良書が出版されることを望みたい。

編集 萩原 栄  
 校正 柿崎輝彦 進藤 務  
 蟹江 元  
 印刷 (株)正大印刷社



# 広告募集

忠臣蔵に関する唯一の論文誌に  
 広告を載せませんか。  
 明治 41 年創立の伝統ある当会の  
 会報誌に広告が掲載できます。

1 ページ 10 万円。  
 半ページ 5 万円です。  
 その他はお問い合わせください。

問合せ先  
 chuogishikai@tokyo.email.ne.jp  
 又は下記まで。  
 chuogishikai@gmail.com

## 誠忠義士伝 赤穂四十七士 Tシャツ

小泉義士堂様でも  
 好評販売中!

12 義士を先行販売! (全 47 義士順次販売予定)



大星由良之助良雄 磯合重郎右衛門正久 中村謙助匠屋 岡島弥惣右工門常樹 織部矢兵衛金丸 藏橋全助武幸  
 早水総左工門清亮 大星清左工門信清 菅屋三之丞正利 徳田孫太夫重盛 角野重平次次房 間瀬省太夫正明



価 格: 4,980円(税込)

素 材: 綿100%

サ イ ズ: M L L L 3L

製 造: 株式会社エー・ディー・ピー 本社工場  
 (吉良邸より徒歩15分)

原 画: 東京都立中央図書館所蔵品(使用許可済)



ご購入はこちら



表



裏

(トレーディングカード)  
 収集札付き!